



# 律令制都城論と藤原京の成立

— 中央官僚群と律令制土器 —

古賀達也 (古田史学の会)  
令和5年(2023) 11月12日

## 当研究の動機と学問の方法

数学・論理学などの公理(研究者が事実と考えても良いと合意できる命題)を歴史学というあいまいで不鮮明な分野に援用して、古代史研究における「公理」として論証に使用できないものか。

〔方法1〕 史料(エビデンス)がより豊富な八世紀の歴史像に基づき、七世紀の歴史像を復元する。

〔方法2〕 律令制王都存立の絶対条件(「公理」)を抽出し、七世紀の王都候補からその条件全てを備えた遺構を王都とみなす。

日本古代史学でも数学のような簡明で美しい定理や命題というもので仮説の評価・位置づけなどを表現できないかと、わたしは考えてきた。このテーマを哲学や論理学に詳しい**茂山憲史**氏(『古代に真実を求めて』編集部)にたずねたことがある。返答は次のようなものであった。

“それはできないと思います。**数学**にはそれを表現できる「**美しい言語**」がありますが、歴史学は人や人の行動を対象とするため、どろどろとした用語しかありませんので、数学のような定義はできません。〃

#### 西村秀己氏からの「個人的感想」

**数学**が他の、歴史学や化学や物理学と違うのは**論証の基礎**となる**素子が自己完結**であることです。分かり易く言うなら、**数学のルールは数学が決めている**、ということ。従って一度証明された事は決して覆る事は無い。

ところが数学以外の学問は自己完結ではないので、証明された(と思った)瞬間から新しい素子(発見された事実)に晒される。これが、数学とそれ以外の学問との違いかと。



## 七世紀、律令制王都の絶対5条件

- 《条件1》 八千人の官僚が執務できる**官衙**の存在。
- 《条件2》 官僚群と家族、商工業者、首都防衛の兵士ら**数万人**が居住できる**巨大都市**の存在。
- 《条件3》 **数万人**の人口を養う**食糧・消費財**の確保。
- 《条件4》 食料や必要物資流通のための都を中心とする**官道(陸路・水路)**の存在。
- 《条件5》 都と官道を防衛するための関や羅城などの**防衛施設**や地勢的有利性の存在。

これら**五つの条件**はそれぞれ独立するが、同時に**互い**に「**系**」として**連結**されており、一つの条件が別の条件を不可欠なものとして導き出すという論理的性格を有している。

従って、どれか一つが抜けても律令制都城の存立を妨げるので、七世紀の九州王朝王都の当否の判断基準として不可欠な存立条件となる。

これらの条件による判断は、曖昧な解釈や個人的主観による仮説成立を拒絶する。その結論として、律令制による全国統治が可能な七世紀後半の王都候補は、難波京(前期難波宮)と藤原京(藤原宮)であることを導き出す。

この方法はセミナーの主旨(**evidence-based**)に合致する。

# 七～八世紀の王宮平面図



大宰府政庁Ⅱ期



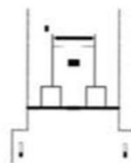
小瀬田宮模式図 (603-655)



前期難波宮(長柄豊碓宮) (652-686)



後飛鳥岡本宮 (7世紀後半)



大津宮 (667-672)

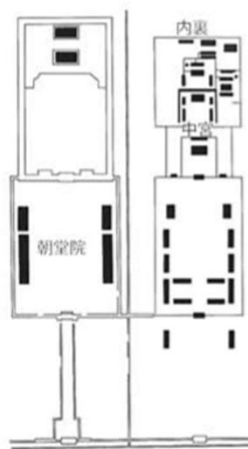


エビノコ郭  
飛鳥浄御原宮 (7世紀後半)



藤原宮 (694-710)

前期難波宮 後飛鳥岡本宮 近江大津宮 飛鳥浄御原宮 藤原宮



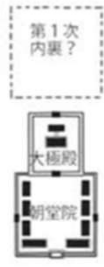
平城宮Ⅰ (8世紀前半)



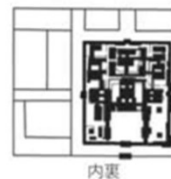
後期難波宮 (723-784)



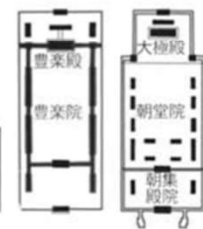
平城宮Ⅱ (8世紀後半)



長岡宮 (784-794)



平安宮 (794-?)



0 200m

第11図 古代宮都の変遷図

## 七世紀、王都・山城「造営尺」の変化

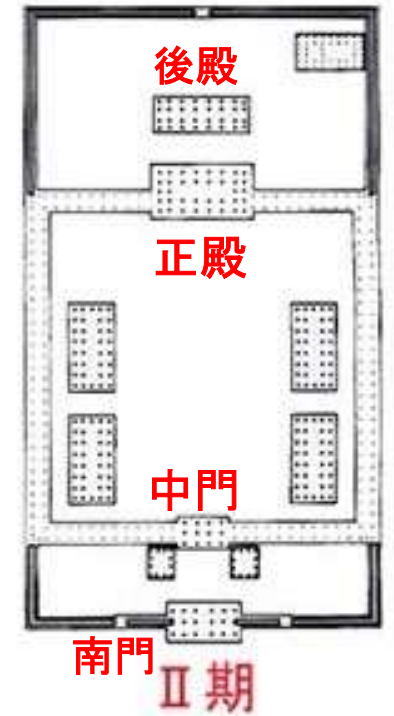
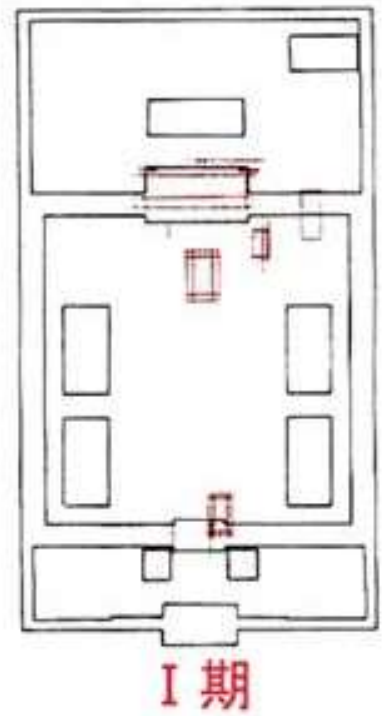
- 太宰府条坊 (90m四方。7世紀前半。通説では7世紀末) 1尺約 **30cm** (小尺で300尺)。
  - 前期難波宮 (652年創建) 〔宮殿〕1尺 **29.2cm** 〔西北地区の方格区割〕1尺 **29.2cm**  
〔条坊〕1尺 **29.49cm**
  - 鬼ノ城 (七世紀頃) 〔倉庫跡〕1尺 **29.2cm** 〔西門〕1尺 **27.33cm**
  - 大宰府政庁Ⅱ期、観世音寺 (670年頃。通説では八世紀初頭)  
1尺 **29.6～29.8cm** (従來說) 政庁と観世音寺中心軸間の距離が594.74m。これを2000尺として算出 (**29.74cm**)。
- ※中国南朝尺 **24.5cm**の1.2倍に相当する「南朝大尺」と称すべき **29.4cm**尺を採用。(古賀説)  
〔後殿〕南朝大尺(**29.4cm**)と条坊尺(**30cm**)を併用 〔正殿〕南朝大尺(**29.4cm**)  
〔北門〕条坊尺(**30cm**) 〔中門〕条坊尺(**30cm**) 〔南門〕南朝大尺(**29.4cm**)と条坊尺(**30cm**)を併用  
(古賀達也「九州王朝都城の造営尺」『古田史学会報』174号、2023年)
- 藤原宮 (694年遷都)  
1尺 **29.5cm** ものさしが出土。※条坊区画の一単位は265m。900尺であれば、1尺 **29.44cm**となる。



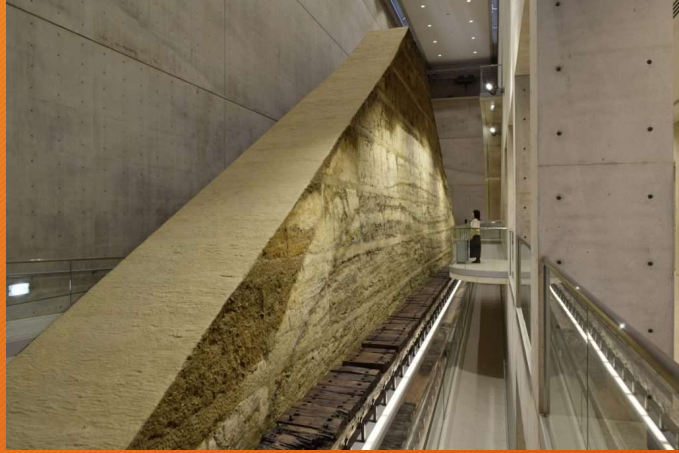


〔後殿〕1尺29.4cmと条坊尺30cm併用  
 〔正殿〕1尺29.4cm  
 〔中門〕条坊尺30cm  
 〔南門〕1尺29.4cmと条坊尺30cm併用

古代の  
 城 (観世音寺口)







狭山池堤体の断面

狭山池は、大阪狭山市にある日本最古のダム式ため池。

## 狭山池

東樋に使用された木材の伐採が**616年**（**定居**六年、推古24年）と年輪年代測定で判定された。堤体の盛り土が幾層にも積まれ、その1部に植物層を含む層があることが判明し、**水城**と同じ敷葉工法（しきはこうほう/葉のついた枝を土留めに使う工法）が用いられていることがわかった。



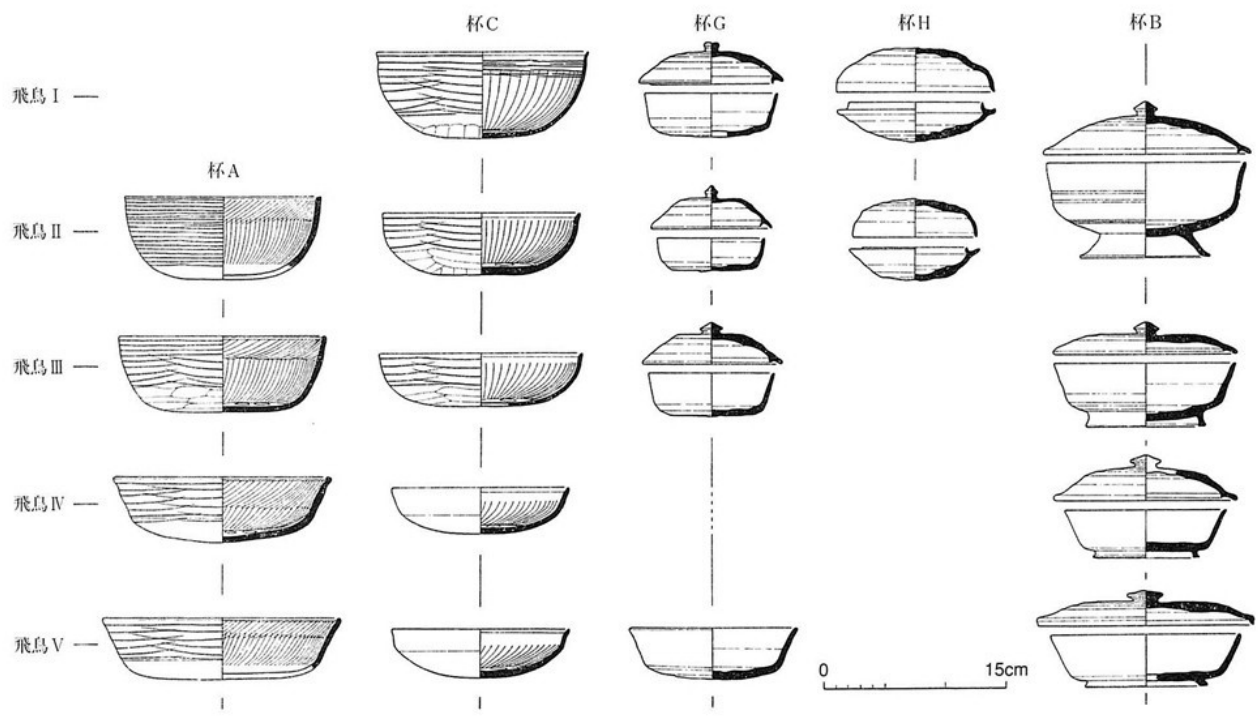
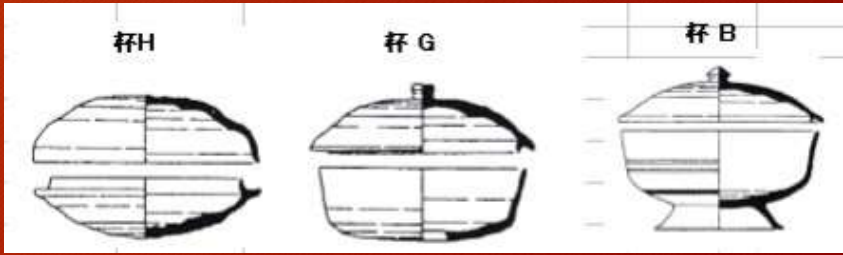


図3 飛鳥・藤原京における土器の編年

卓上に置いて使用する食器**坏B**の出現と、机上で執務する**律令制官僚群(文書官僚)**の発生時期が対応するのは偶然ではない。

七世紀における須恵器坏の変遷 **H→G→B**  
 従來說で、坏Gは7世紀中頃、**坏B**は同後葉頃の発生とされてきた。



**牛頸窯跡群**は太宰府の西側に位置し、九州王朝屈指の土器生産センター。操業は六世紀中ごろに始まり、当初は2～3基程度の小規模な生産だが、**六世紀末**から**七世紀初め**に窯の数は一気に急増し、七世紀前半にかけて継続する。

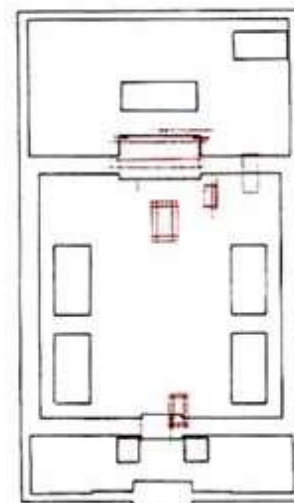
これは、太宰府条坊都市造営の開始期と考えられる七世紀初頭(**九州年号「倭京元年」618年**)頃に土器生産が急増したことを示しており、九州王朝の**太宰府建都**を示す考古学的痕跡である。

**七世紀中頃**になると牛頸での土器生産は減少する。**前期難波宮**造営に伴う工人(陶工)らの移動(**番匠**の発生)の結果と考えられる。消費財である土器の生産・供給の減少は人口の減少を意味し、これは太宰府の**官僚群が前期難波宮(難波京)へ移動**したことの痕跡であろう。

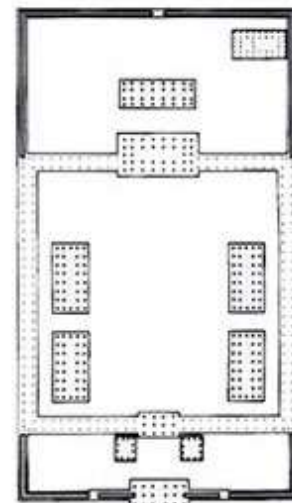
## 須恵器**坏B**が出現

650年頃造営

670年頃造営



I期



II期

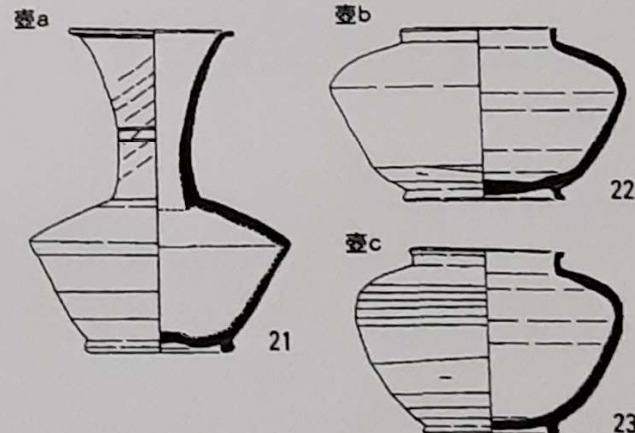


## I 期 古段階整地層出土

No.	地区	遺構・土層	Fig.No.
	門	SA505	175-1
	門	SC022	167-3
	廊東北隅	第2整地	194-11
4	"	"	194-19
5	中 門	SB005	166-15
6	回廊東北隅	第2整地	194-25
7	"	"	194-41
8	北 門	第1整地	176-15
9	"	SA505	175-2
10	回廊東北隅	第2整地	195-51
11	"	SB500	199-5
12	"	"	194-35

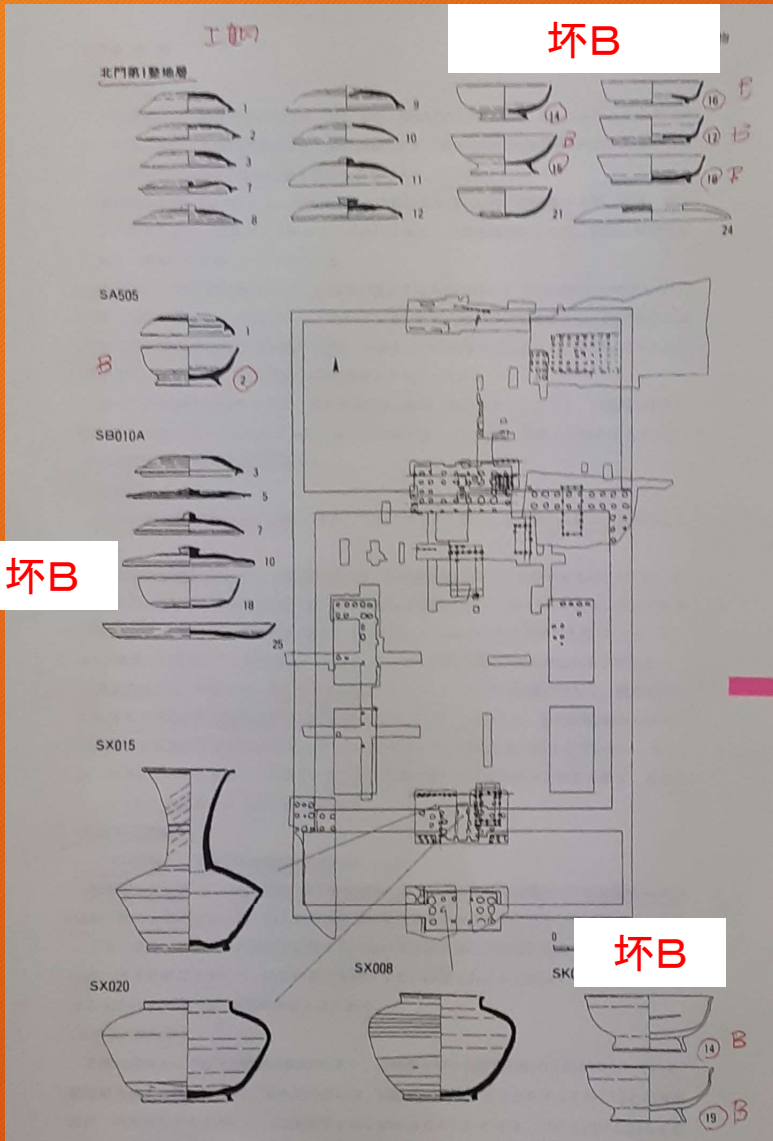
No.	地区	遺構・土層	Fig.No.
13	回廊東北隅	第2整地	194-30
14	"	"	195-46
15	北 門	第1整地	176-11
16	"	"	176-12
17	"	"	176-18
18	"	"	176-17
19	回廊東北隅	第2整地	195-52
20	"	"	195-53
21	中 門	SX015	168-11
22	"	SX020	168-12
23	南 門	SX008	162-14

## I 期 新段階整地層出土

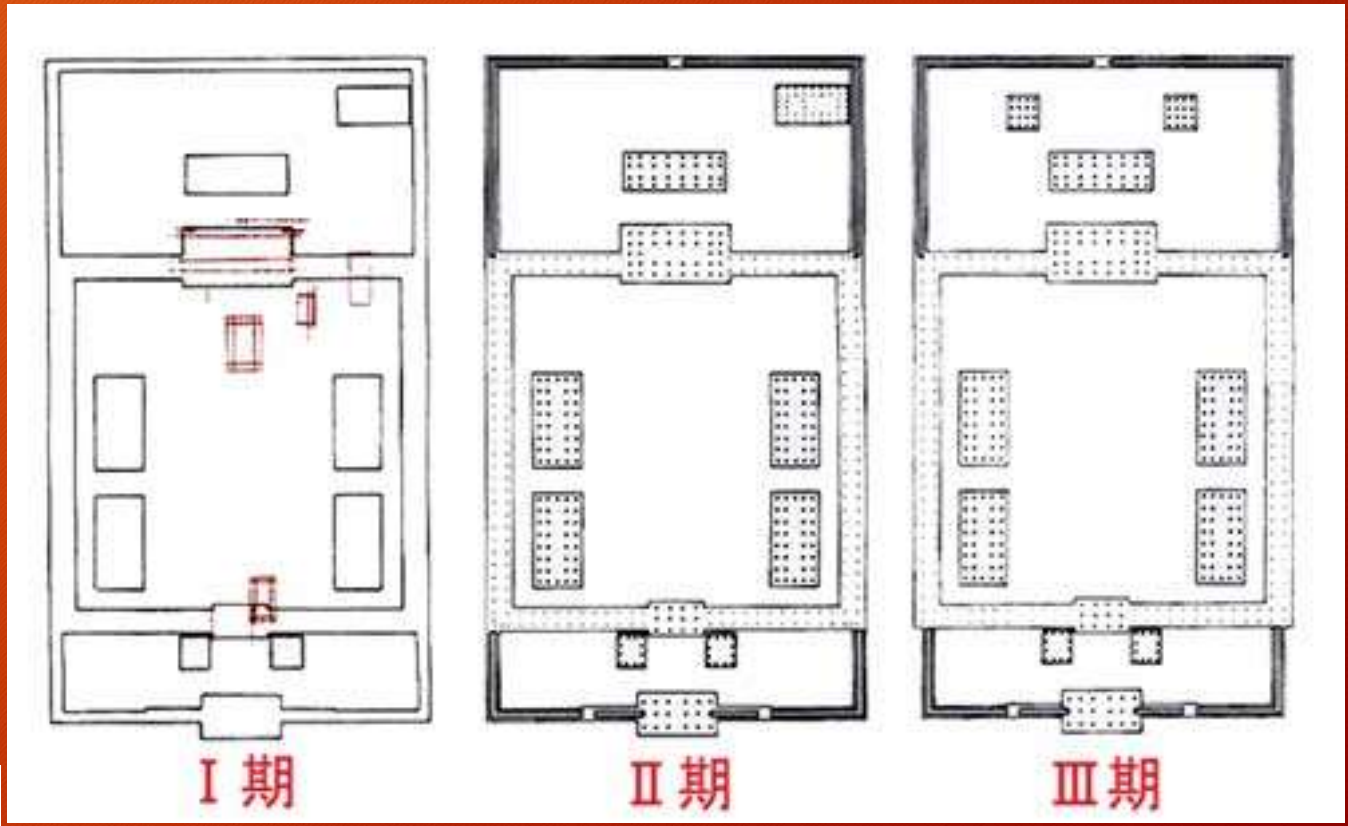


## II 期 整地層出土

# 大宰府政庁出土土器編年図 『大宰府政庁跡』2002年



大宰府政庁 I 期新段階整地層から  
**坏B**が出土する。『大宰府政庁跡』2002年  
 正木説では I 期新段階の造営を  
**650年頃**とする。



大宰府政庁 I ~ II 期 主要遺構出土土器



第2表 遺跡出土遺物表

			III A	III B	IV	V	VI	VII古	備考	
羅城	須恵器小田型式 奈文研坏分類				H	G	B	B		
	水城跡	5次 SX050,051			○	○				
	上大利小水城跡	2次 積土			○					
	池田遺跡土壘	補修土							地震痕跡	
	大土居水城跡	2次 積土下溝				○				
山城	大野城跡	13次 第一層群 土壘表土		+	+					
		45次 明灰色砂層			+	+				
		トレンチ黄褐色砂層						○		
		白黄砂層					○			
	鞠智城跡	90-3区 5号建物跡				○				
		90-IV区 16号建物柱掘方				○				
		90-IV区 11号建物柱掘方				○				
		20次 貯水池跡			○	○				
	官衙・都市	180次 SB122	○							
		180次 SA111	○							
180次 I期古段階整地層		○								
180次 II期新段階整地層			+			○	土			
180次 SB120				+		○	○			
180次 SB121							○			
180次 SB123							○	○		
蔵司地区	65-1次 整地層		○	+						
	54.80次 整地層						○	+	II期	
大宰府政庁前面域	17次 SK388						○			
	86次 SX2319			○						
	81次 SX2320			+	+	○				
	136-2次 SX4642			○						
	98次 SX2480				+	○				
83.84次 SX2344				○		○				
84次 SX2416					+	+	○			
64次 SK1521						○				

坏B

# 「大宰府成立再論」山村信榮

『大宰府の研究』2018年

大宰府成立再論

第1表 土器のセリエーションとフェイス

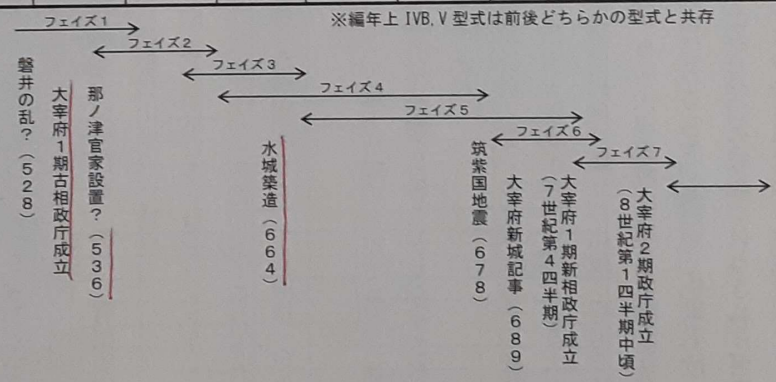
坏B



典型資料 / 須恵器坏形式	九州編年	III A	III B	IV A	IV B	V	VI	VII古	VII新	備考
	大宰府土器編年 奈文研分類									
政庁I期古段階		○	+							
野添6号窯跡		○	+							
野添9号窯跡		+	○	+						
神ノ前2号窯跡			+	○	+					初期瓦
月ノ浦1号窯跡 / 惣利西2号住居				○	○	○				初期瓦
小田浦窯跡群 79地点 (1,2号窯)					+	+	○			
牛頭ハセムシ 12地点 9号窯							+	○		
政庁前面域 SD2340 中下層								+	○	

大宰府政庁跡

土器のセリエーション  
と時間的段階 (フェイス)



従来説では、大宰府政庁 I 期の成立を坏B出土を根拠に、7世紀第4四半期とする。



# 前期難波宮内 裏北西部出土 水利施設の木 枠と石組水路



木枠(ヒノキ)の  
年輪年代測定  
により、伐採  
年は**634年**と  
判明した。



図1 前期難波宮全体図

# 水利施設出土土器により前期難波宮造営が7世紀中頃(孝徳期)と確定した

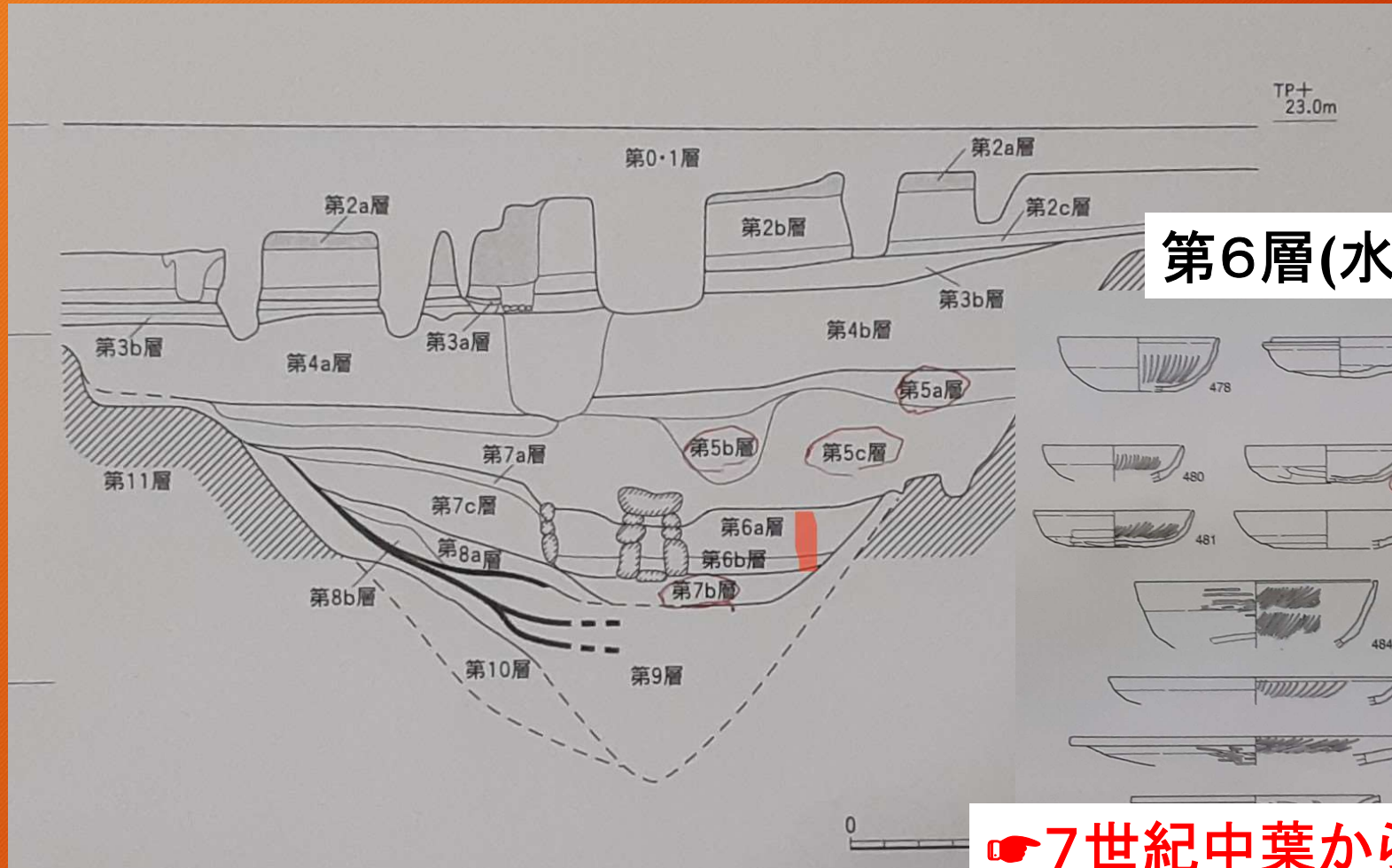
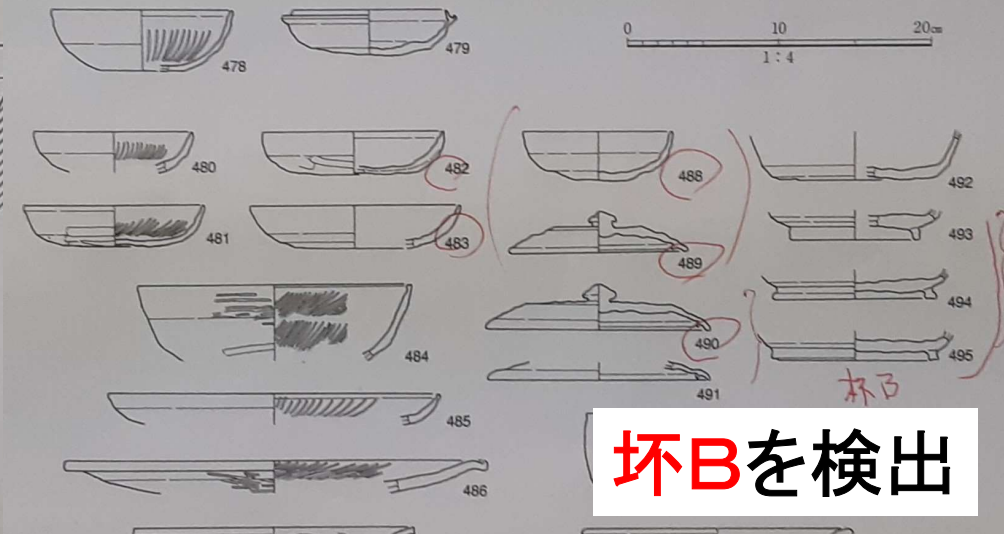


Fig.13 地層断面の模式図

『難波宮址の研究 第11』2000年

## 第6層(水利施設内部堆積層)

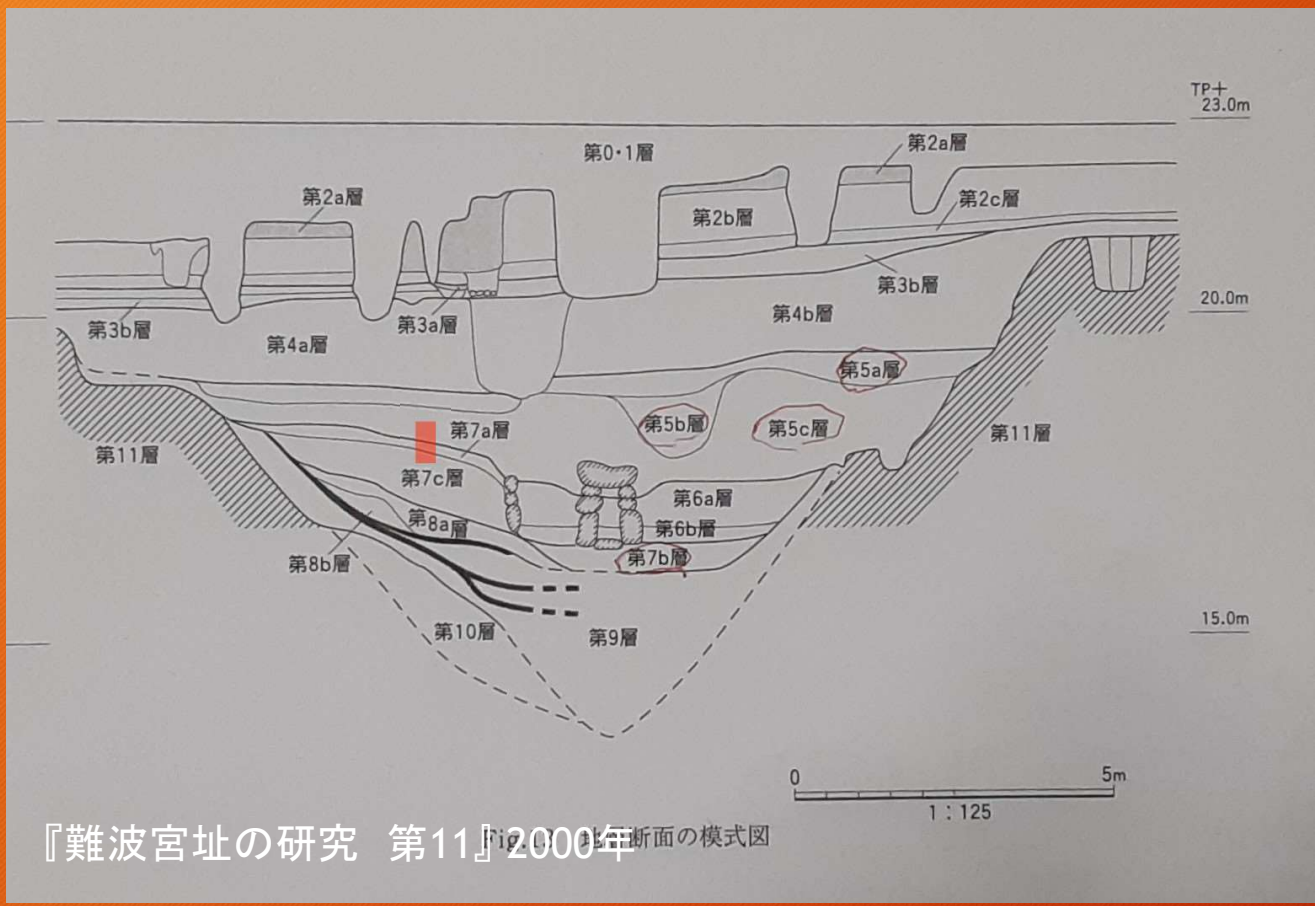


坏Bを検出

7世紀中葉から8世紀初頭と編年

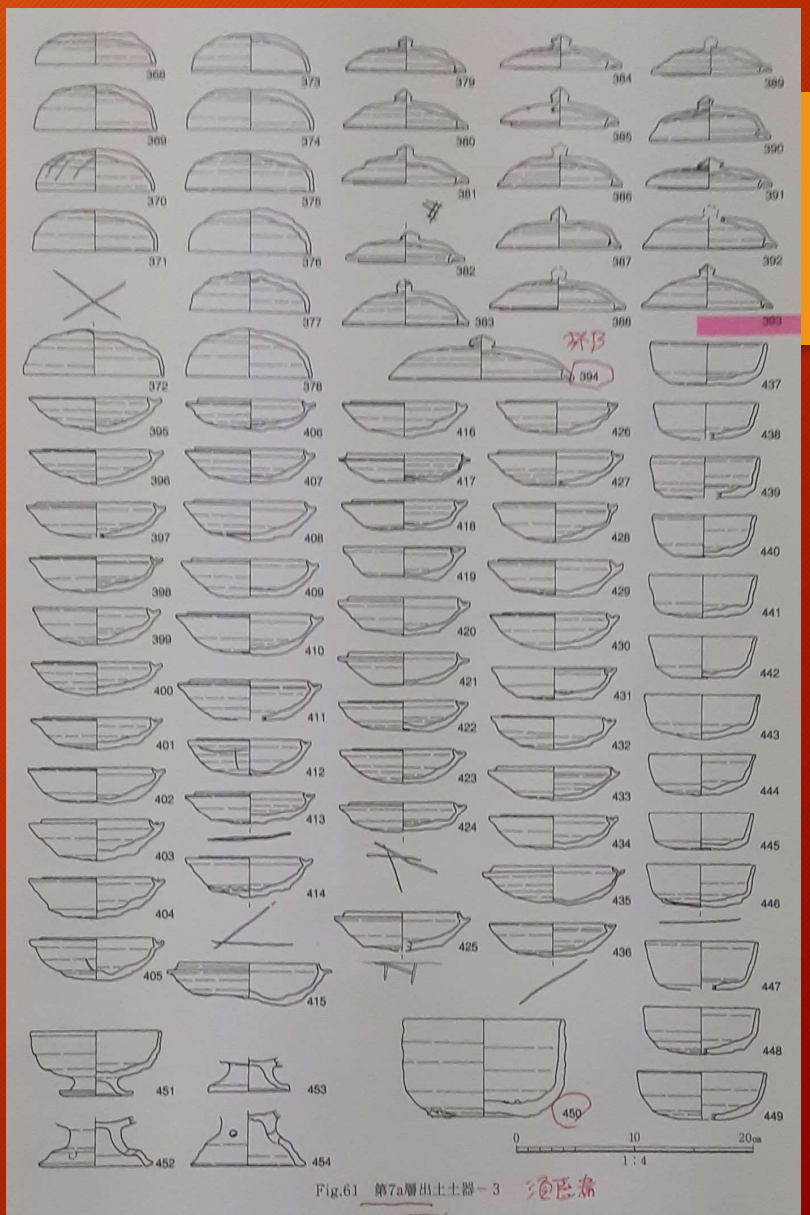
Fig.64 第6層出土土器  
第6b層(478・479) 第6a層(480-497)





『難波宮址の研究 第11』Fig. 11 断面の模式図

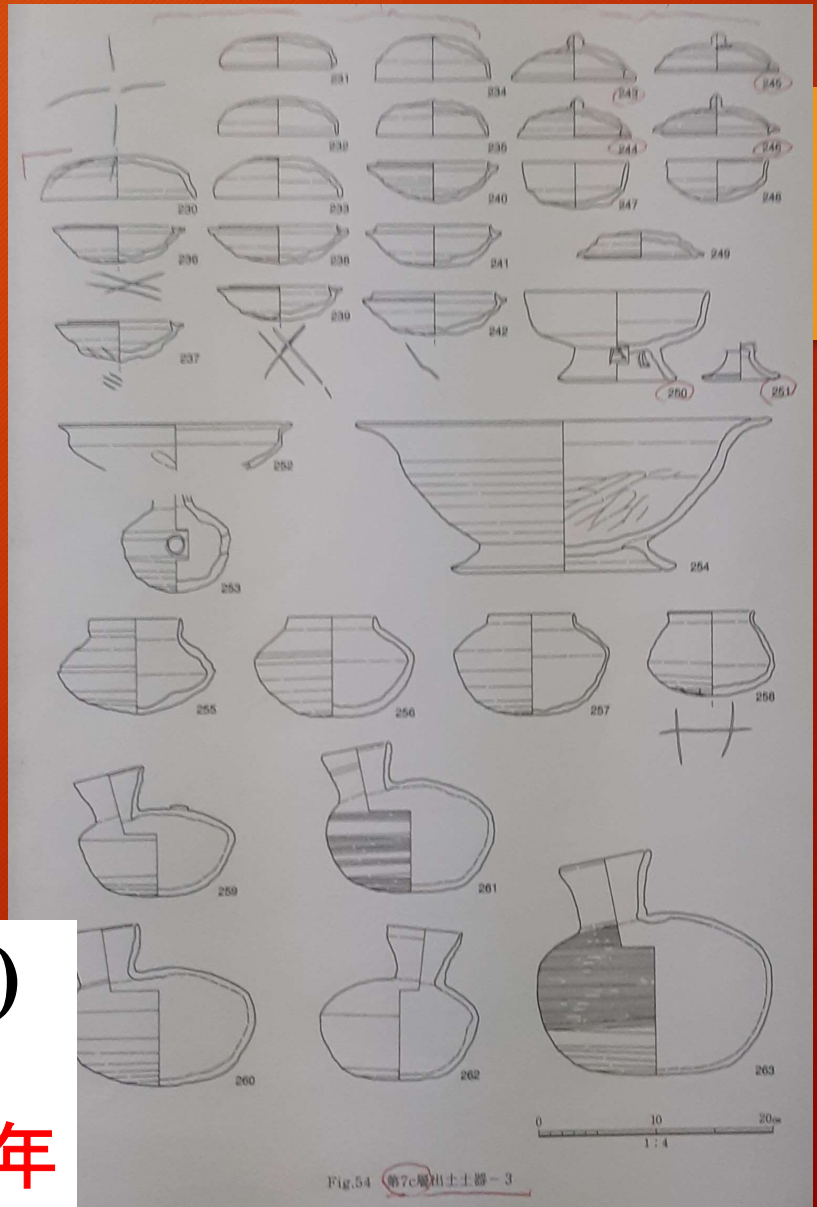
第7a層(蓋石を覆うための客土)  
 坏Hと坏Gを検出。坏Bはない。  
 7世紀中葉と編年







『難波宮址の研究 第11』2000年 Fig.32 地層断面の模式図



第7c層(水利施設造営に先立つ埋立て土)  
 坏Hと坏Gを検出。坏Bはない。

👉 7世紀中葉と編年



『難波宮址の研究 第11』2000年 Fig.12 第7b層の模式図

第7b層(水利施設造営の**整地層**)  
 坏Hと坏Gを検出。**坏B**はない。  
 7世紀中葉と編年

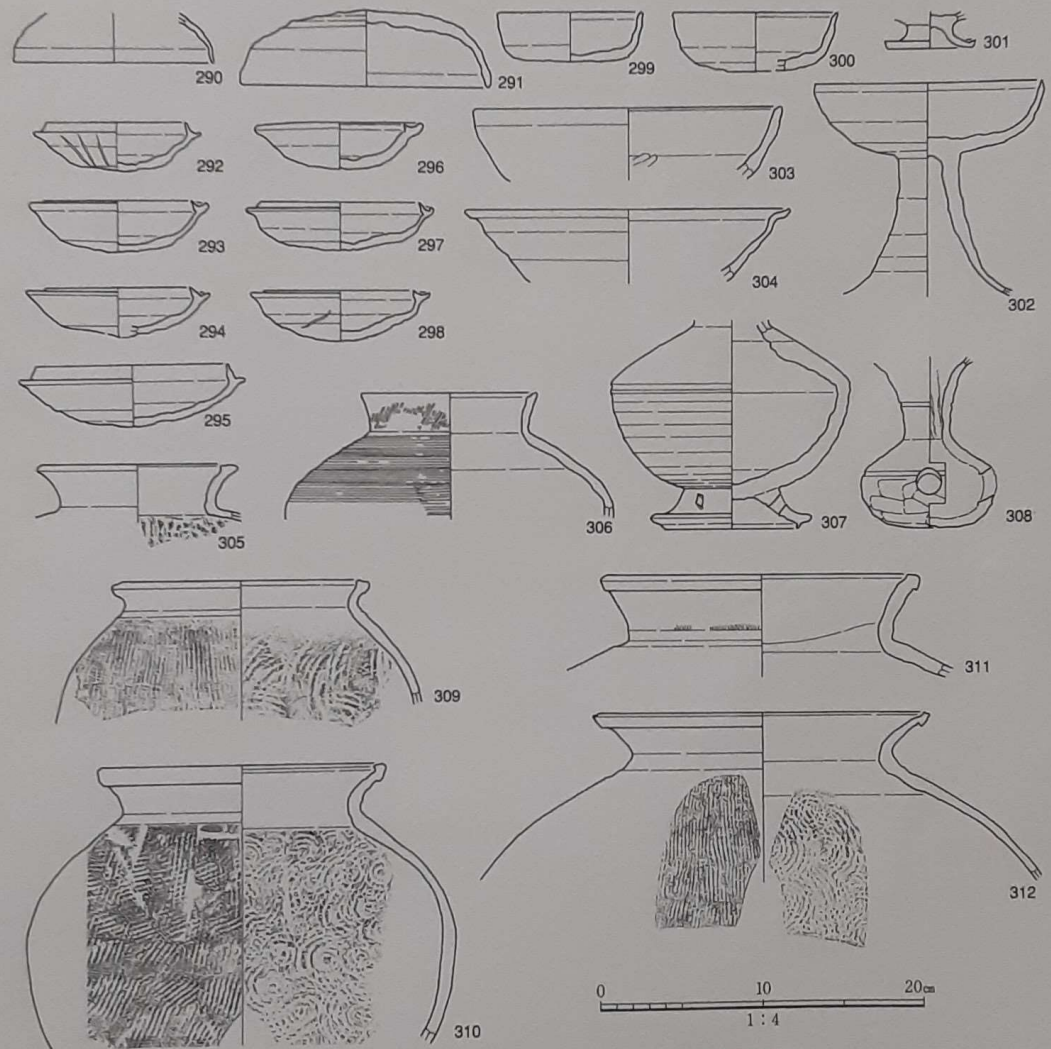


Fig.58 第7b層出土土器-2

須田啓







# 絶対5条件から見た九州王朝王都候補の評価

(1)官衙 (2)都市 (3)食料 (4)官道 (5)防衛

太宰府(倭京)	△	○	○	○	◎
難波京	◎	◎	○	○水運	◎
近江京	○	×	○	○水運	○
藤原京	◎	◎	○	○	◎
伊予「紫宸殿」	×	×	○	○水運	×

## 九州王朝(倭国)の東方浸出の概要とエビデンス

- (1)「倭の五王」の時代(5世紀) 筑後(久留米市か)に王都を移す。古田武彦「筑後川の一線」
- (2)難波に東方浸出の拠点置く。上町台地に列島最大規模の倉庫群出土。
- (3)端政元年(589) 阿每多利思北孤(あまのたりしほこ)即位。『隋書』『大善寺玉垂宮縁起』
- (4)告貴元年(594) 全国に国府寺の建立を命じる。『聖徳太子伝』『日本書紀』
- (5)定居六年(616) 難波への食糧供給・増産のため、灌漑施設「狭山池」の造成開始。
- (6)倭京元年(618) 太宰府遷都 『聖徳太子伝』他。条坊都市の拡充発展。牛頸窯の急増。
- (7)倭京二年(619) 難波に天王寺を創建。『二中歴』、出土創建瓦の編年(620年頃)。
- (8)白雉元年(652) 前期難波宮(複都)創建、評制施行。『日本書紀』、前期難波宮出土。
- (9)白鳳元年(661) 近江大津宮へ遷都。『海東諸国紀』 ※正木説によれば「九州王朝系」勢力。
- (10)白鳳十年(670) 観世音寺創建。『二中歴』 この頃、大宰府政庁Ⅱ期造営。出土瓦編年  
庚午年籍を全区規模で造籍。『日本書紀』
- (11)朱鳥元年(686) 前期難波宮が焼亡し、朱鳥に改元。火災跡の出土、『日本書紀』  
このころから藤原宮造営開始。藤原宮出土「干支木簡」
- (12)朱鳥九年(694) 12月に持統が藤原宮へ遷都。『日本書紀』
- (13)大化元年(695) 大化に改元。『二中歴』他。大宝元年(701)の王朝交代へと進む。

【飛鳥藤原出土の評制下荷札木簡】

国名	飛鳥宮	藤原宮(京)	小計
山城国	1	1	2
大和国	0	1	1
河内国	0	4	4
摂津国	0	1	1
伊賀国	1	0	1
伊勢国	6	1	7
志摩国	1	1	2
尾張国	9	8	17
参河国	20	3	23
遠江国	1	2	3
駿河国	1	2	3
伊豆国	2	0	2
武蔵国	3	2	5
安房国	0	1	1
下総国	0	1	1
近江国	8	1	9
美濃国	18	4	22
信濃国	0	1	1
上野国	2	3	5
下野国	1	2	3

若狭国	5	18	23
越前国	2	0	2
越中国	2	0	2
丹波国	5	2	7
丹後国	3	8	11
但馬国	0	2	2
因幡国	1	0	1
伯耆国	0	1	1
出雲国	0	4	4
隱岐国	11	21	32
播磨国	6	6	12
備前国	0	2	2
備中国	7	6	13
備後国	2	0	2
周防国	0	2	2
紀伊国	1	0	1
阿波国	1	2	3
讃岐国	2	1	3
伊予国	6	2	8
土佐国	1	0	1
不明	98	7	105
合計	227	123	350

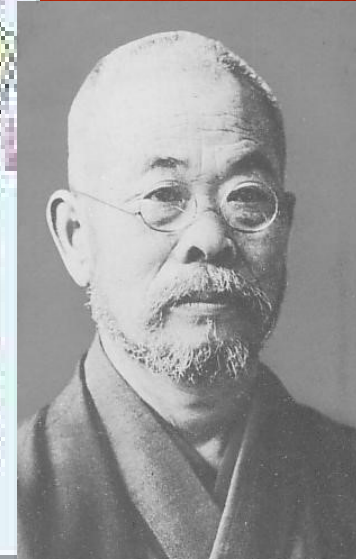
# 飛鳥宮・藤原宮 7世紀の統治領域 —荷札木簡の証言—

## 九州の空白の謎

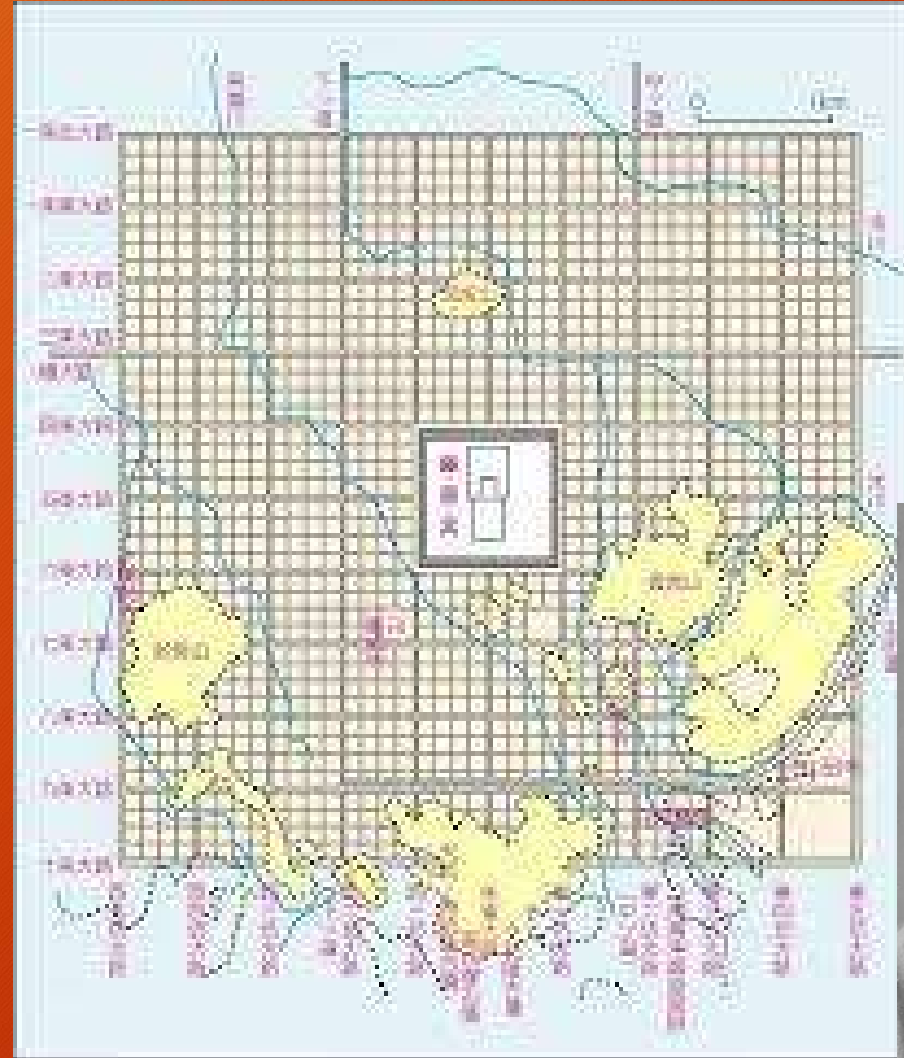
市 大樹『飛鳥藤原木簡の研究』  
(塙書房、2010年)所収「飛鳥藤原  
出土の評制下荷札木簡」による。



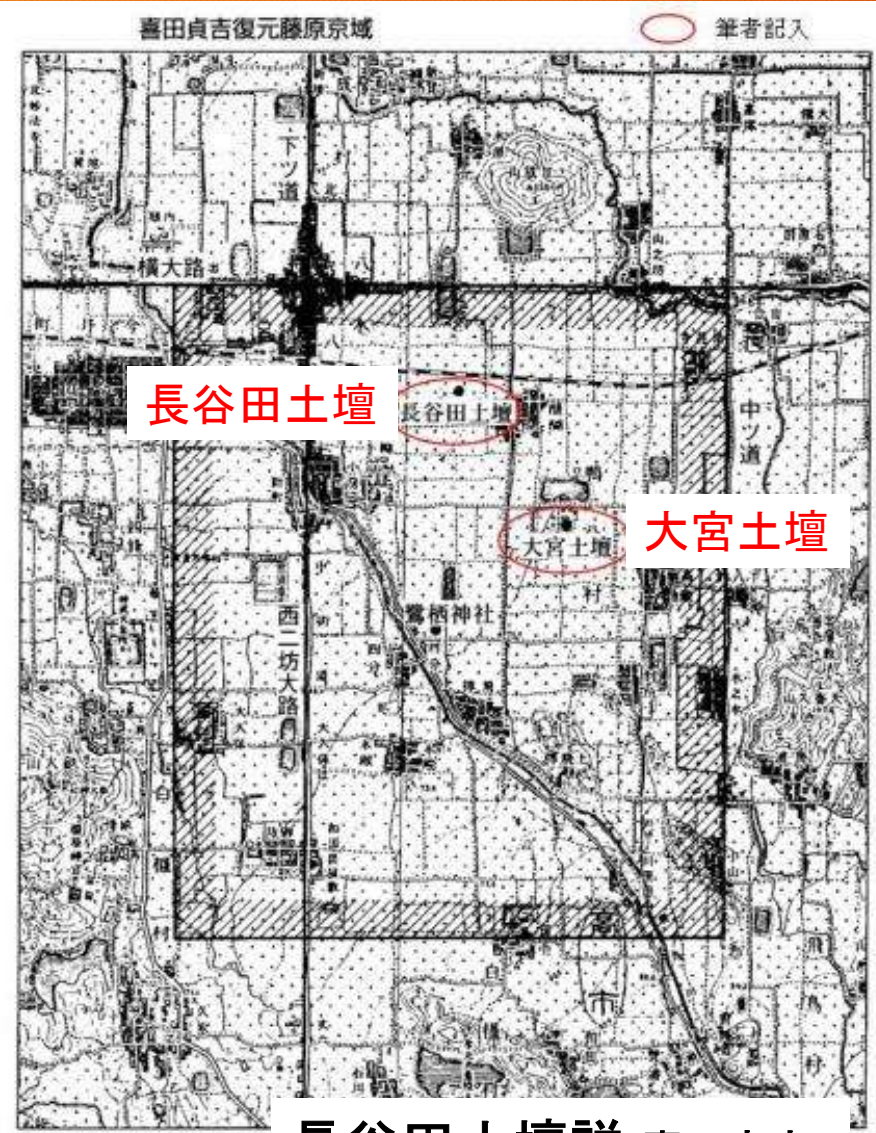
# 二つの 藤原京説



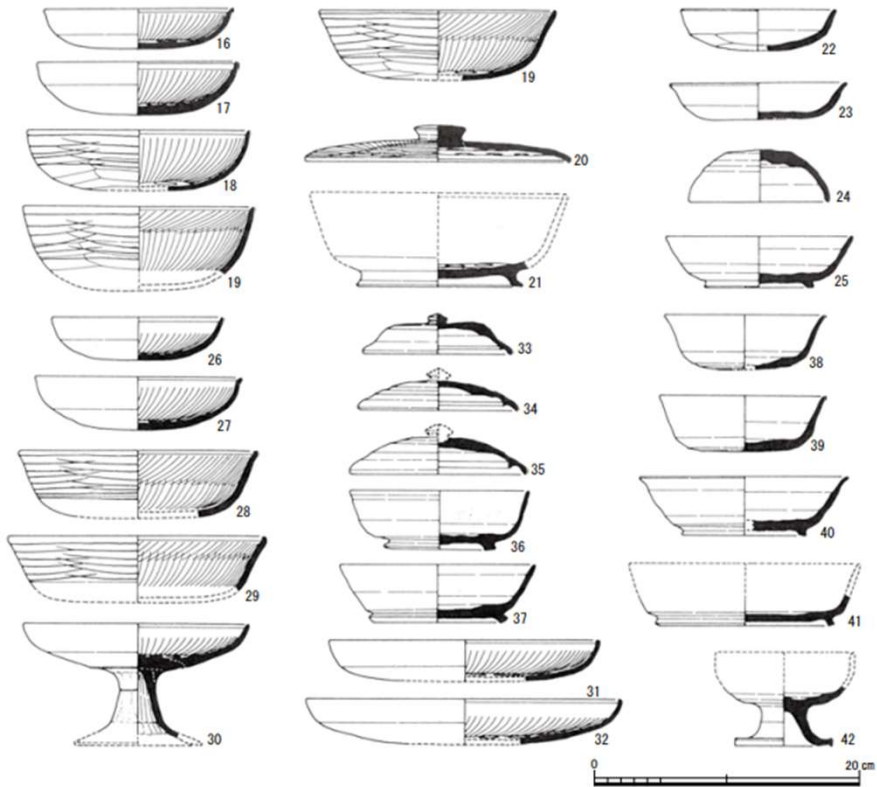
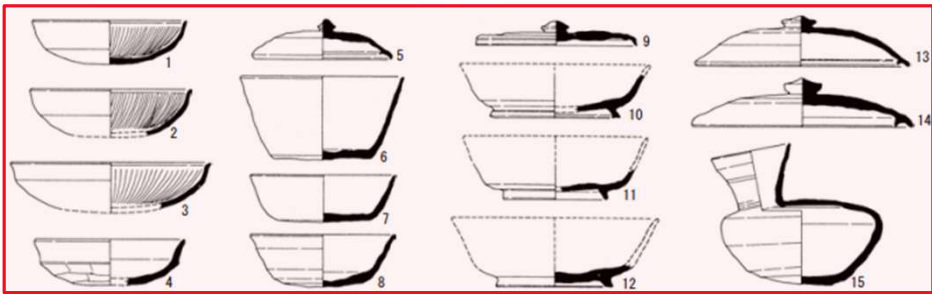
喜田貞吉  
明治4年～昭和14年



現在の定説 大宮土壇説



「藤原宮」飛鳥資料館より 長谷田土壇説(喜田貞吉)



1・2・7・12 五条大路北側溝 SD8461、3～6・8・11・13～15 五条大路南側溝 SD8462  
16～25 西二坊坊間路東側溝 SD1070、26～42 西二坊坊間路西側溝 SD1080

(奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査概報』26 1996年、奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査報告』II)

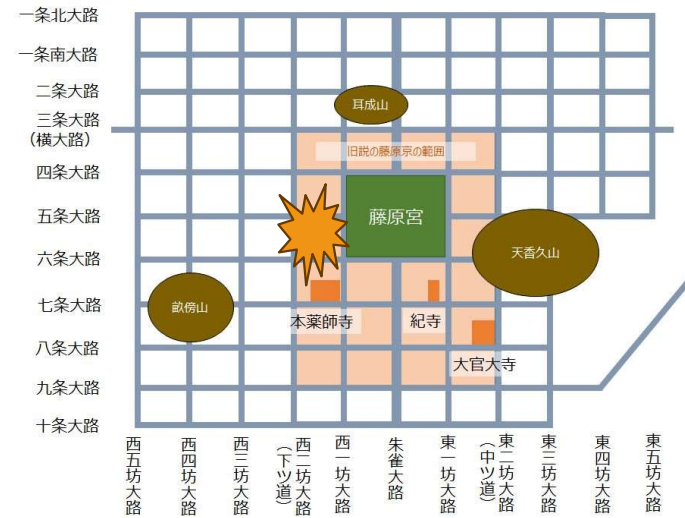
図1 「新城」出土土器1

## 👉 五条大路南北側溝からの出土土器

**飛鳥ⅢとⅣ古段階  
670～680年頃**

## 👉 西二坊坊間路東西溝からの出土土器

**先行条坊から出土する土器が飛鳥Ⅳに限定されるのではなく飛鳥Ⅲに該当するものも一定量含まれる。**

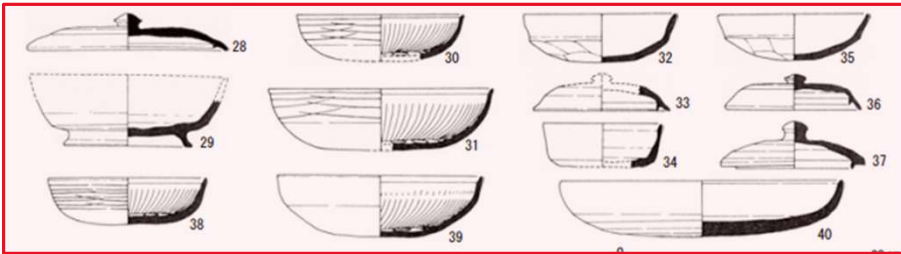
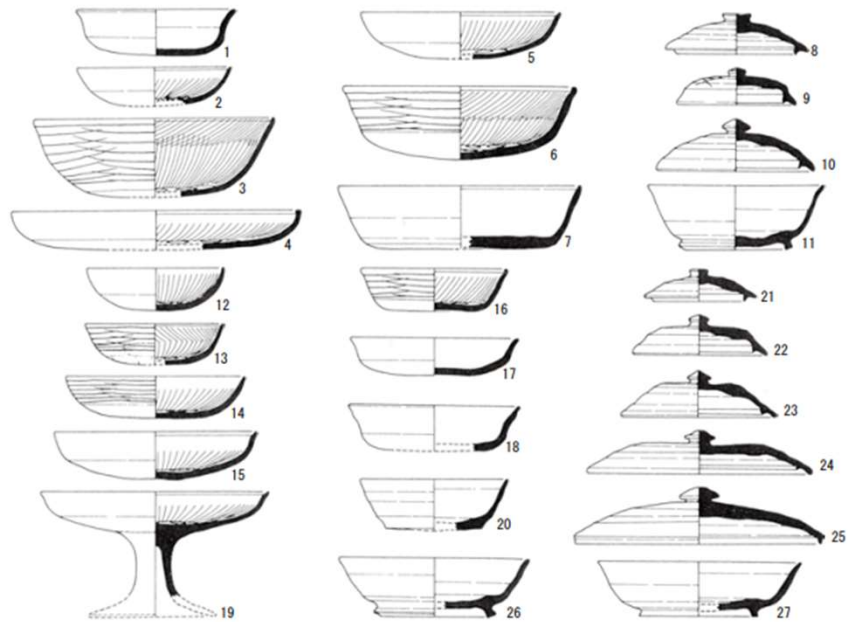


重見 泰「新城の造営計画と藤原京の造営」2017年



## 五条条間路南北側溝(先行条坊)からの出土土器

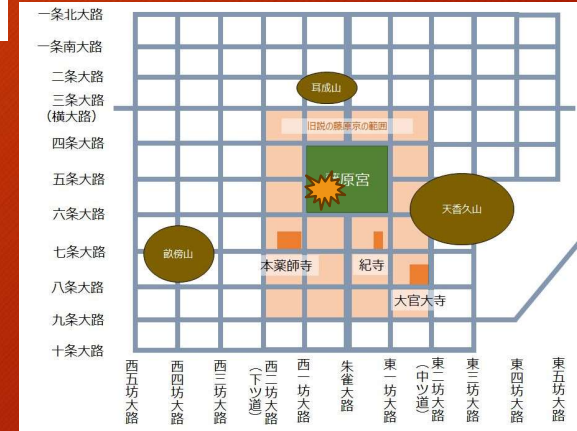
飛鳥Ⅲ～飛鳥Ⅳ  
670～690年



1～4 五条条間路北側溝 SD1130、5～11 五条条間路北側溝 SD1260、12～25 五条条間路南側溝 SD1250、  
26・27 五条条間路南側溝 SD1120、28 掘立柱建物 SB1230 柱穴、29 掘立柱塀 SA1231 柱穴、  
30～34 土坑 SK1366、35～36 土坑 SK1365、37～40 土坑 SK1271

(奈良国立文化財研究所『飛鳥・藤原宮発掘調査報告』II)

図2 「新城」出土土器2



## 藤原宮造営以前の建物群からの出土土器

飛鳥Ⅱ 新段階～飛鳥Ⅲ  
650～670年

# 藤原宮西方官衙地区、西南官衙地区、 東方官衙地区の下層出土土器

※藤原京条坊施工の開始時期

## 飛鳥Ⅲの新段階 (670~680年代)

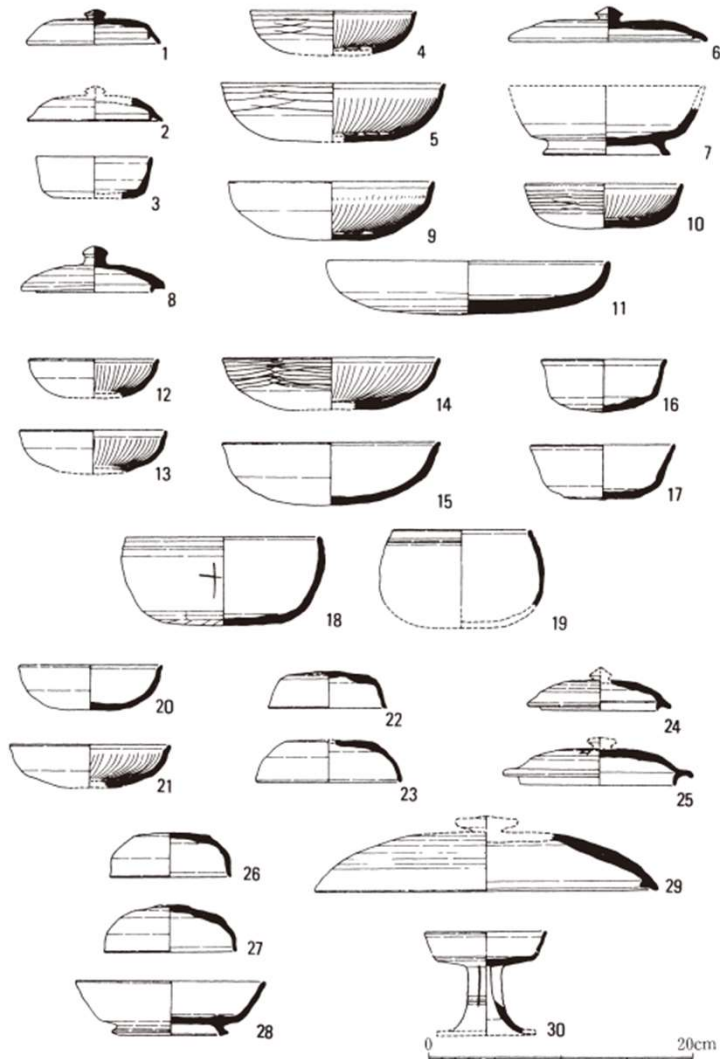
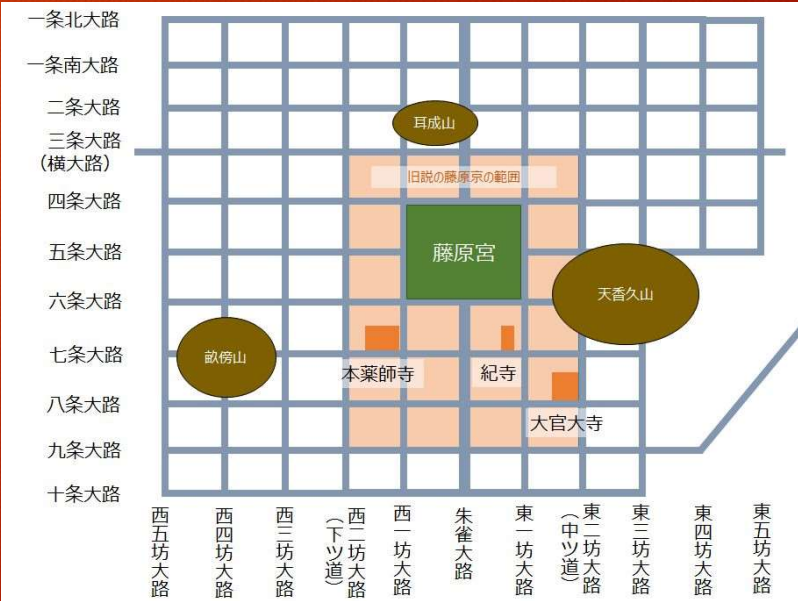


図9 藤原宮西方官衙・西南官衙・東方官衙下層 出土土器 (scale 1/5)  
 (1~5: 西南官衙 SK1365・SK1366, 6・7: 西方官衙 SB1230・SA1231  
 8~11: 西方官衙 SK1271, 12~30: 東方官衙 SD3035・SD3045・SD3030)



林部 均 「藤原京の条坊  
施工年代再論」 2010 年



# 本薬師寺下層 出土土器

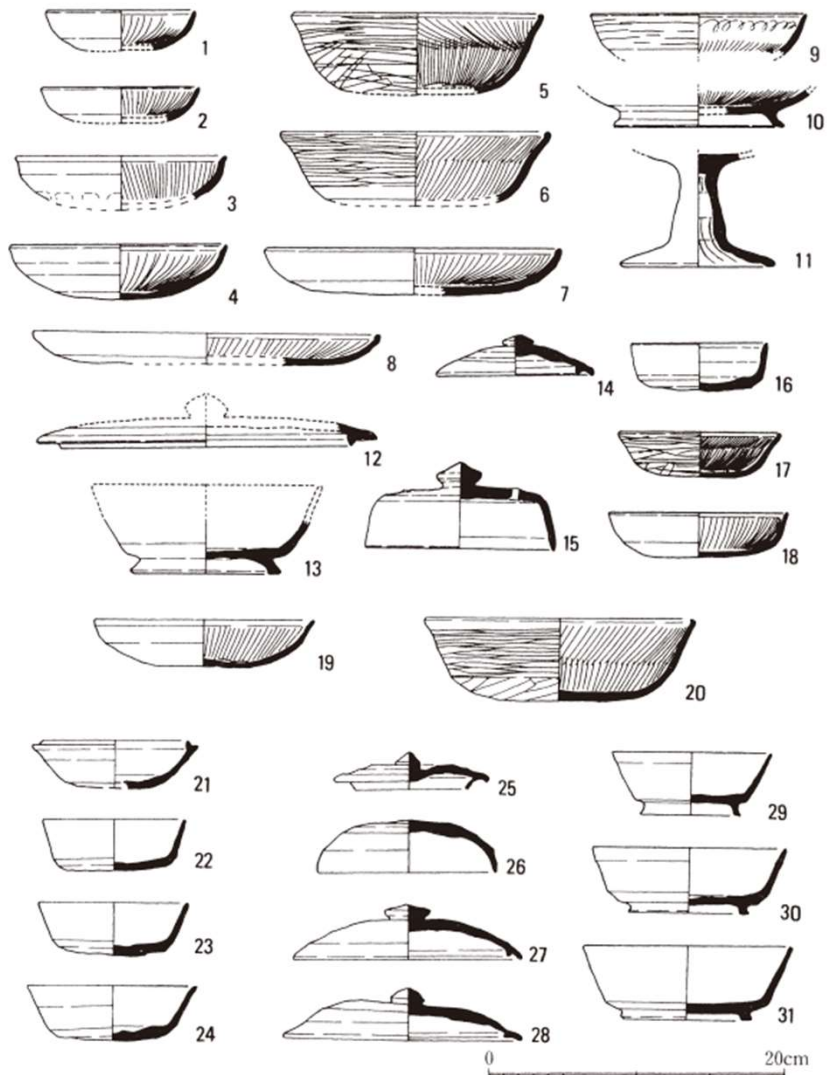


図11 本薬師寺下層 出土土器 (scale 1/5)  
 (1~15: 先行条坊側溝 SD151・SD152, 16~18: SK270, 19~31: SK154)

飛鳥Ⅳでも、より飛鳥Ⅲ  
 に近い古い様相  
 680~690年



林部 均 「藤原京の条坊施工  
 年代再論」 2010年

# 大官大寺下層出土土器

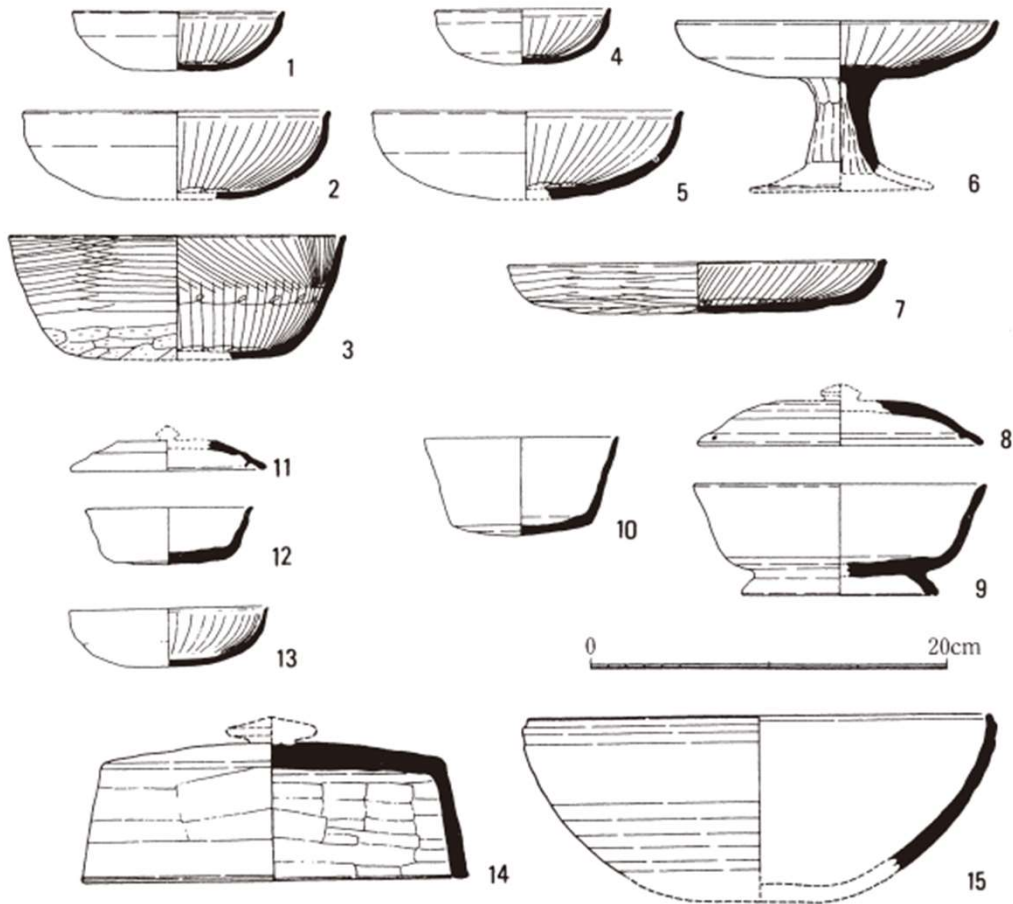
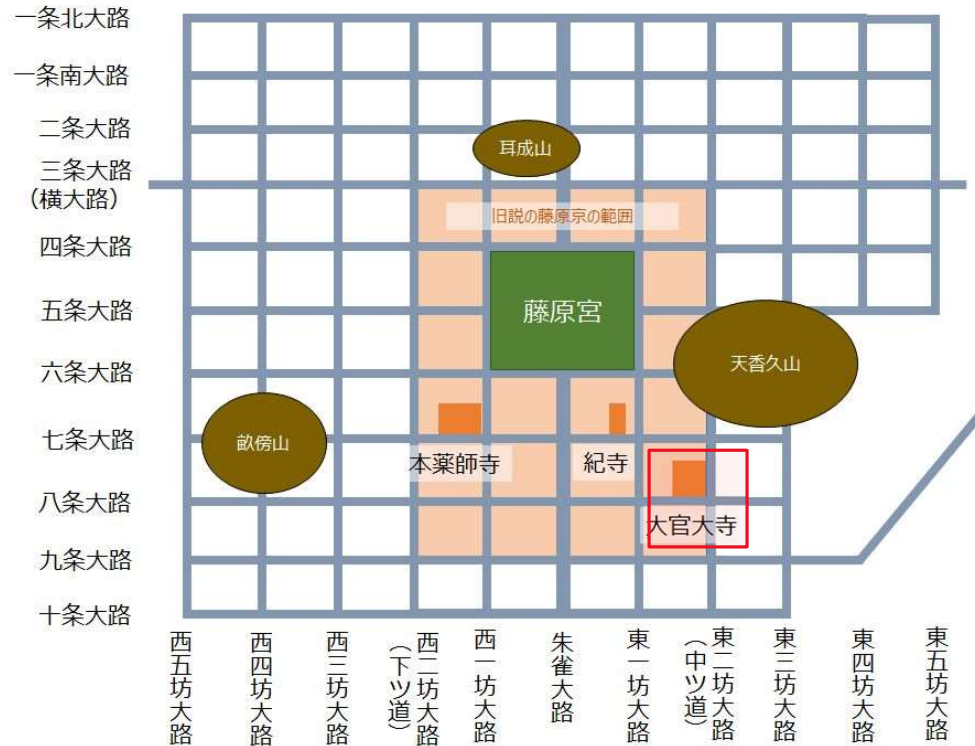


図10 大官大寺下層・藤原宮下層 出土土器 (scale 1/5)  
 (1~3: 大官大寺下層 SE116, 4~10: 大官大寺下層 SK121  
 11~13: 大官大寺下層 SK226, 14・15: 藤原宮東方官衙 3030)



# 飛鳥Ⅲ新段階 670年頃

林部 均「藤原京の条坊施工  
年代再論」2010年



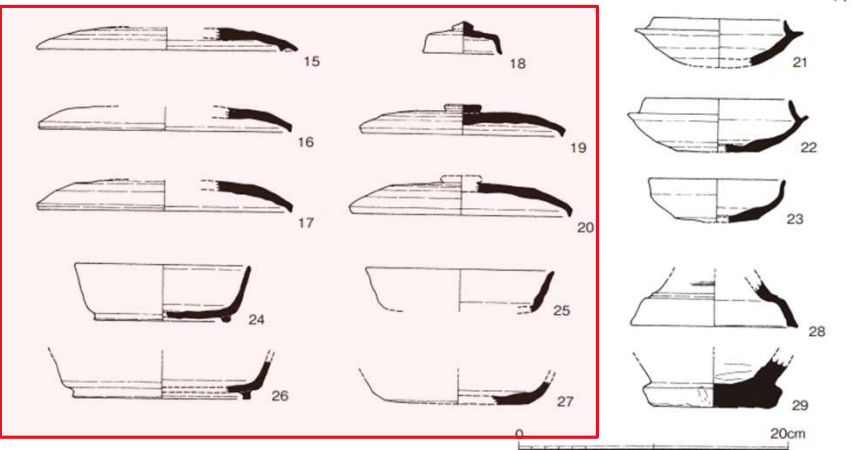
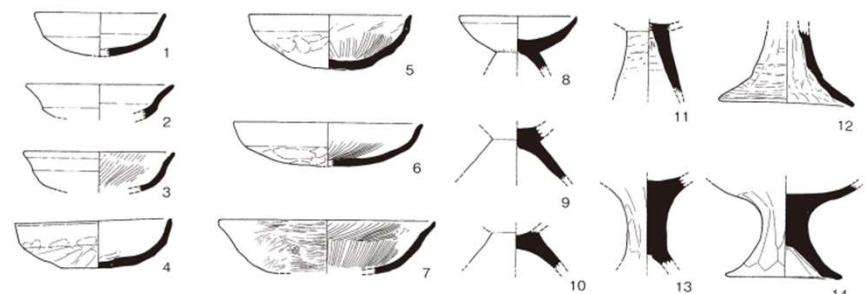
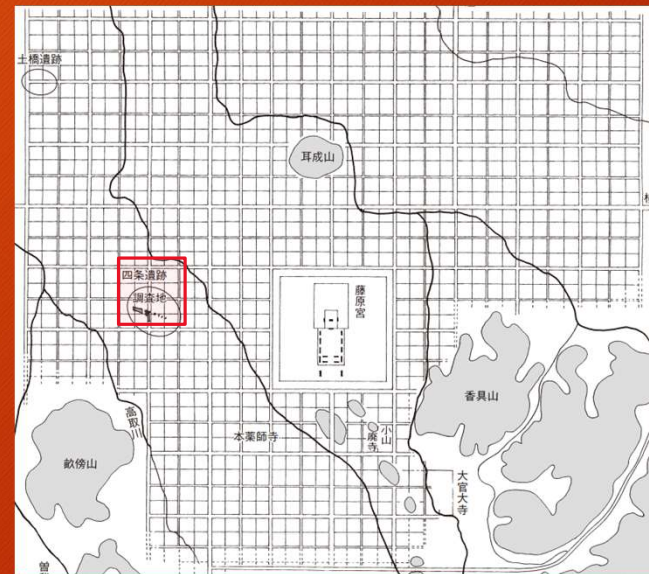


図5 四条遺跡 SD147整地層 出土土器 (scale 1/5)

👉 条坊施工時に埋めた整地層から出土

飛鳥 V  
700~710年



👉 条坊施工時に埋めた溝から出土

藤原京四条西六坊  
四条遺跡出土土器

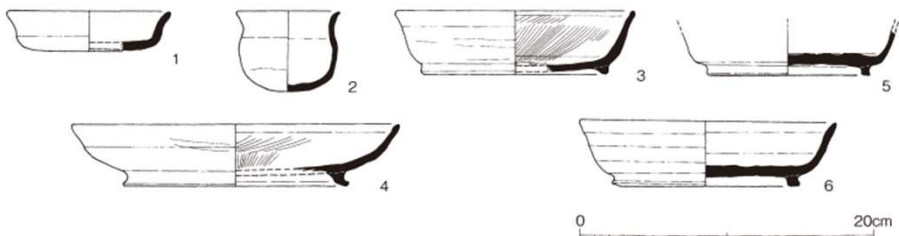


図6 四条遺跡 SK106 出土土器 (scale 1/5)

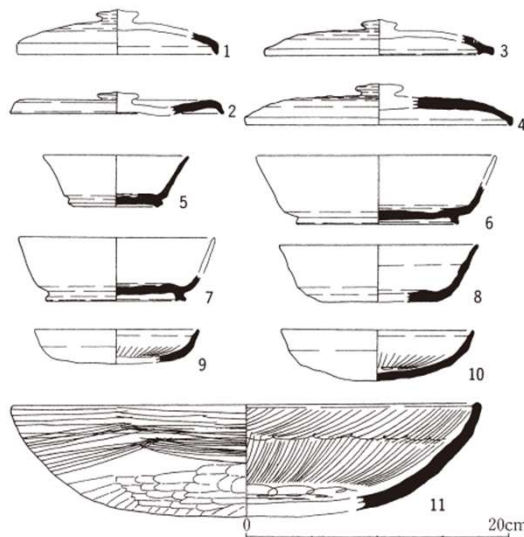


図8 四条遺跡 溝9 出土土器 (scale 1/5)

林部 均 「藤原京の条坊施工年代再論」 2010年

## 藤原京を造営した権力者は誰か

飛鳥池遺跡天武期の層位から『日本書紀』に見える天武の子供「**大津皇子**」「**舍人皇子**」「**穗積皇子**」「**大伯皇子**」の名を記した木簡が出土。従って、同じく出土した「**天皇**」木簡は**天武天皇**とするのが妥当。「**詔**」木簡や「**仕丁**」木簡(石神遺跡)も出土し、その時代の**飛鳥に天皇皇子**を名乗り、**詔勅**を出し、**仕丁**を徴集した**権力者**がいたことを木簡が証言。年代は**藤原京造営期**と重なり、造営主体が**天武**であることを示唆する。



飛鳥池出土「天皇」木簡(複製)



同「大津皇(子)」木簡



七世紀(評制下)の**官職名**が記された飛鳥宮(**石神遺跡**)・藤原宮地区出土木簡・土器

- 「**大学官**」「**勢岐官**」「**道官**」**石神遺跡** (天武期)
- 「**嶋官**」「**干官**」**苑池遺構** (天武・持統期)
- 「**舎人官**」「**陶官**」藤原宮跡地大極殿院北方 (天武期)
- 「**宮守官**」藤原宮跡西南官衙区 (持統・文武期)
- 「**加之伎手官**」(墨書土器) 藤原宮跡東方官衙北地区 (持統・文武期)
- 「**園職**」藤原宮北辺地区 (持統・文武期)
- 「**蔵職**」「**文職**」「**膳職**」藤原宮跡東方官衙北地区 (持統・文武期)
- 「**塞職**」藤原宮跡北面中門地区 (持統・文武期)
- 「**外薬**」藤原宮跡西面南門地区 (持統・文武期)
- 「**造木画処**」藤原宮跡東面北門地区 (持統・文武期)

【石神遺跡評制下荷札木簡の年次

西曆 干支 天皇年 献上国

69	69	69	68	68	68	68	68	68	67	67	67	67	67	66
2	2	2	6	5	4	1	1	0	9	9	9	8	8	5
壬辰	壬辰	壬辰	丙戌	乙酉	甲申	辛巳	辛巳	庚辰	己卯	己卯	己卯	戊寅	戊寅	乙丑
持統六	持統六	持統六	天武十五	天武十四	天武十三	天武十	天武十	天武九	天武八	天武八	天武八	天武七	天武七	天智四
参河国	参河国	参河国	参河国	美濃国	美濃国	不明	伊豆国	美濃国	不明	不明	美濃国	不明	美濃国	美濃国



## 大宝元年(701)王朝交代後の藤原宮(京)出土木簡に見える中央省庁

○「宮内省移 価糸四口」

「大宝二年八月五日少口口 中務省移[ ]口(勘力)宣耳」

木簡番号1482 藤原京左京七条一坊西南坪

○「中務省口(移)力」

木簡番号1747 藤原京左京七条一坊西南坪

○「中務省牒口(留力)守省」

木簡番号0 藤原宮跡内裏東官衙地区

○「中務省移」「口口 口口口(和銅力)」

木簡番号1093 藤原宮跡内裏北官衙地区

○「中務省使部」

木簡番号18 藤原宮跡北面中門地区

○「中務省 管内蔵三人」

木簡番号17 藤原宮跡北面中門地区

○「栗田申民部省…○寮二処衛士」「檢校定○十月廿九日」

木簡番号1079 藤原宮跡東方官衙北地区

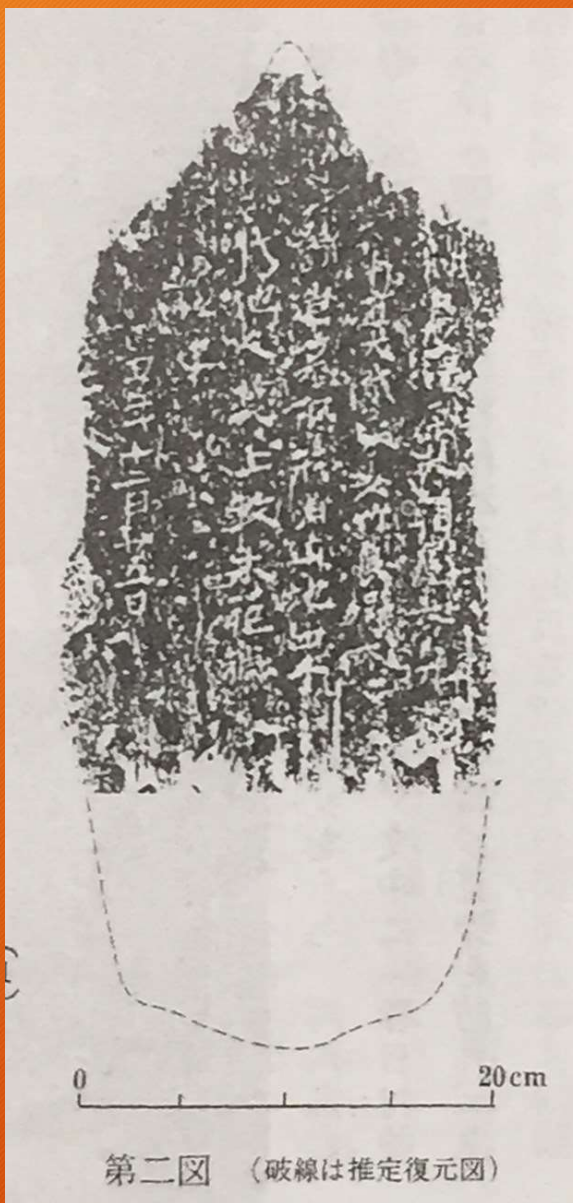
# 采女氏塋域碑

己丑年(六八九年)

飛鳥淨原大朝廷大弁  
官直大貳采女竹良卿所  
請造墓所形浦山地四十  
代他人莫上毀木犯穢  
傍地也

己丑年十二月廿五日

采女氏塋域碑 小杉文庫藏拓本真拓



第二図 (破線は推定復元図)



ご清聴、ありがとうございました

古田武彦記念古代史セミナー2023